

「JR貨物による輸送品質改善アクションプラン」の取組み状況 「モーダルシフト推進委員会」について

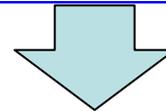
平成20年9月

- ・輸送品質改善アクションプランの枠組み (別紙1)
- ・モーダルシフト推進委員会とは (別紙2)
- ・アクションレポートの取組み (別紙3)
- ・ソリューションチームによる取組み (別紙4)
- ・輸送枠を取りやすくする取組み (別紙5)
- ・コンテナ輸送品質向上に向けた取組み (別紙6)

輸送品質改善アクションプランの枠組み

役割発揮懇談会において抽出したお客様のニーズ

- ・ お客様のニーズを受け止めるための体制整備
- ・ 大型コンテナ及び温度管理コンテナ利用拡大のニーズ
- ・ リードタイム改善のニーズ
- ・ 輸送力、輸送枠に対するニーズ
- ・ 輸送障害時の情報提供及び対応に関するニーズ



「JR貨物による輸送品質改善アクションプラン」

お客様・利用運送事業者・JR貨物の三者が一体となって課題の解決に取り組む

お客様のニーズを反映するための取組み

- ・ お客様対応体制の強化
 - ・ お客様の輸送ニーズへの取組み
- 【具体的な取組み】
- ・ ソリューションチームによる取組み
 - ・ 業種別専任グループによる取組み
 - ・ 荷物事故防止に向けた取組み
 - ・ 特大コンテナ輸送限界調査のパターン化
 - ・ 大型コンテナネットワークの拡大 など

輸送枠を取得しやすくする仕組み作り

- ・ ニーズを反映した輸送力計画の実施
 - ・ 弾力的な輸送システム・予約システムの構築
- 【具体的な取組み】
- ・ 休日輸送力の活用
 - ・ あいろん区間代行の実施
既存ORSの曜日限定中継ネットの設定
福岡(夕)～鳥栖(夕)間列車併用代行

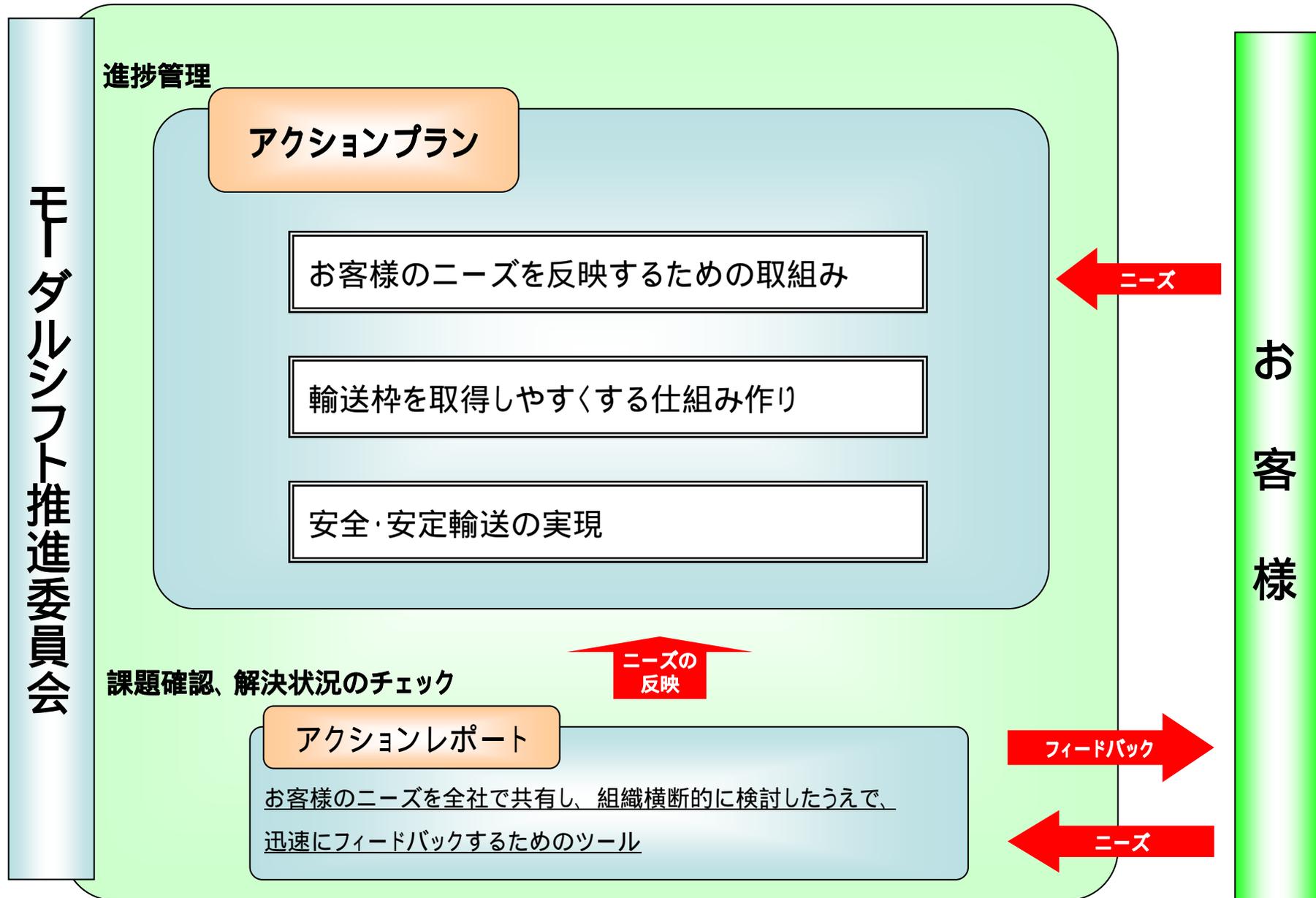
安全・安定輸送の実現

(輸送障害時における対策)

- ・ 迅速、的確な情報連絡体制の整備
 - ・ 運転再開後における列車遅延拡大の防止
 - ・ 鉄道輸送不能の場合における代替輸送体制の整備
- 【具体的な取組み】
- ・ 輸送障害時の情報提供の検討
 - ・ 予備車両の配置
 - ・ 全国通運連盟との共同実証実験の実施 など

モーダルシフト推進委員会とは

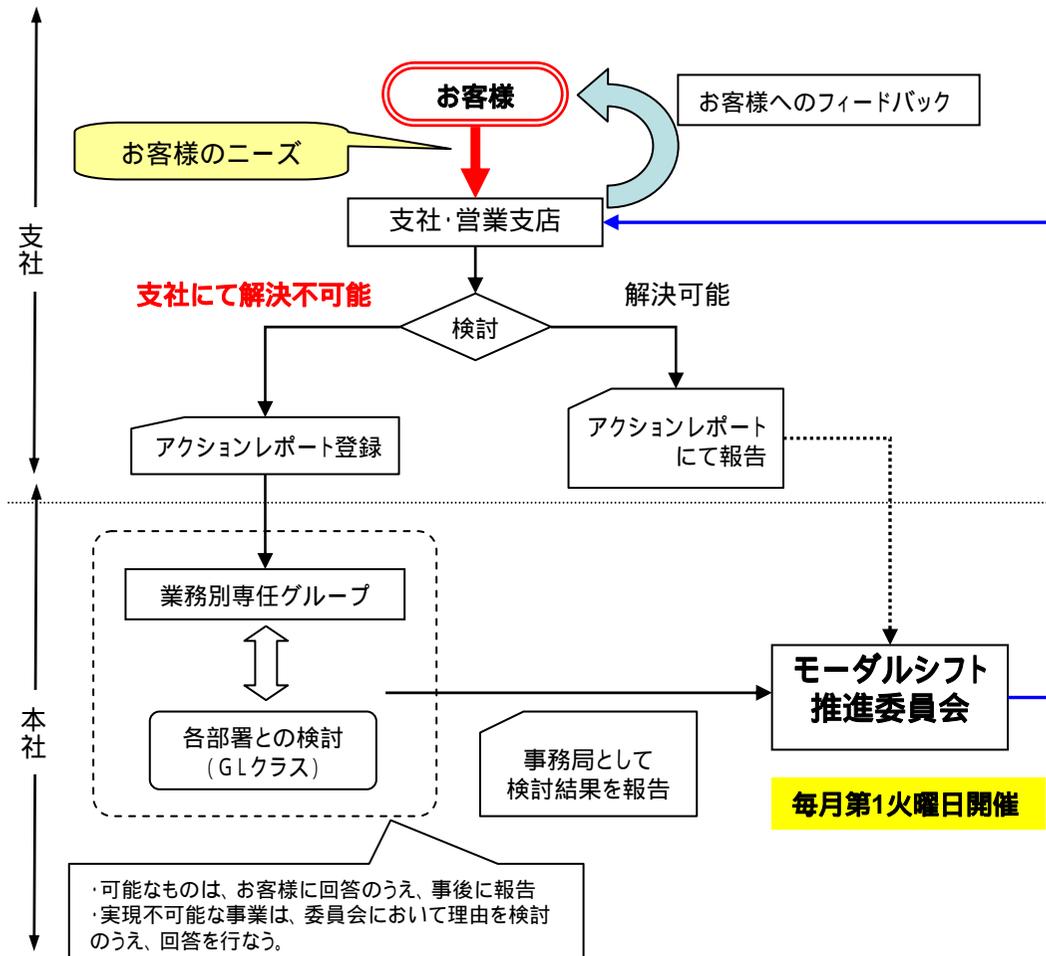
別紙2



1. アクションレポートの目的

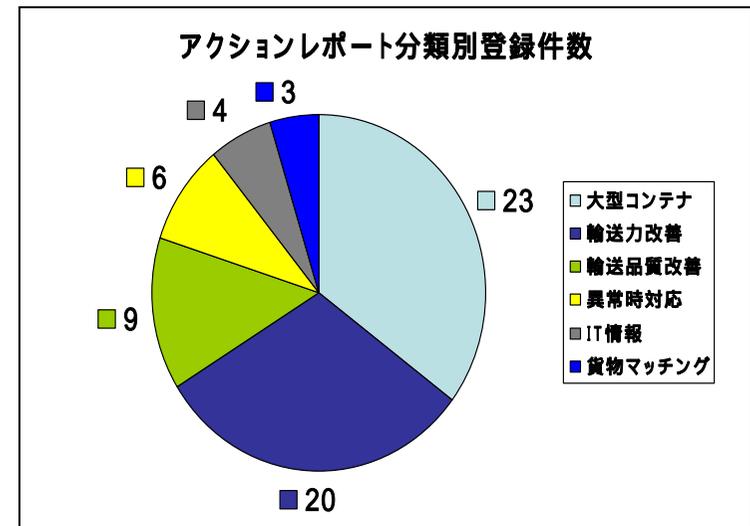
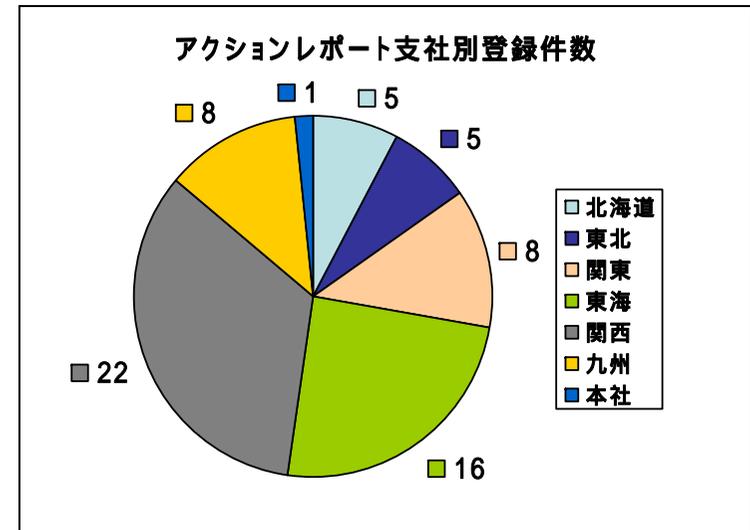
お客様からのニーズ(課題)を会社全体で受け止める必要の中で、お客様に対して、課題解決の過程を明確にし、お客様にフィードバックする仕組みづくりを行った。その中で、本社・支社・支店・営業支店との間の情報を結びつけるためのツールとして「アクションレポート」の利用を開始した。

2. アクションレポートの流れ



3. アクションレポートの登録

登録件数 65件 (平成20年9月1日現在)



ソリューションチームによる取組み

1. ソリューションチームとは

お客様のニーズの中で、当社単独では解決できないものに関しては、その都度、「ソリューションチーム」を設置し、お客様、利用運送事業者の皆様と当社が三位一体となり、課題の解決、対策の実施、効果の検証に取り組む。

2. 業界団体・荷主企業ソリューションチーム進捗状況

4業界団体、14企業 合計18ソリューションチームが設置済み
(本社版ソリューションチーム)

3. 主なソリューションチームのモーダルシフト推進事例

同業他社との組み合わせによる事例

同業他社間における31フィートコンテナ往復輸送への取り組み

異業種との組み合わせによる事例

異業種間における「31フィート温度管理コンテナによる往復マッチング輸送」

荷主企業個別による事例

荷主企業との、モーダルシフト推進に向けた検討

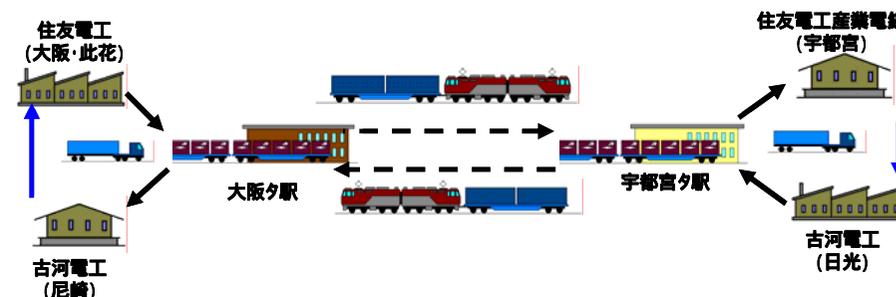
(品目別輸送ルート分析に基づく、課題の抽出及び対策検討)

4. ソリューションチームによる輸送本格化への具体例

業界団体「日本電線工業会」による共同輸送体系構築

31フィートコンテナを用いて、大阪と栃木の工場間の往復輸送を鉄道にシフトするため、「日本電線工業会」とのソリューションチームを平成19年8月に設置し、本格輸送へ向け検討。輸送開始に伴い、利用運送事業者が31フィートコンテナを2個作成した。

利用区間	宇都宮貨物ターミナル駅	大阪貨物ターミナル駅
	【輸送品目：伸銅品】	
	大阪貨物ターミナル駅	宇都宮貨物ターミナル駅
	【輸送品目：銅伸線】	
輸送開始時期	平成20年10月1日	



5. ソリューションチームの拡大に向けた取組み

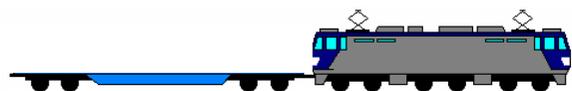
平成20年度は、全国的にお客様のニーズを早期に解決する仕組みづくりを進めるために、ソリューションチームの全国への拡大を図り、「地域版ソリューションチーム」を立ち上げる。

輸送枠を取りやすくする取組み

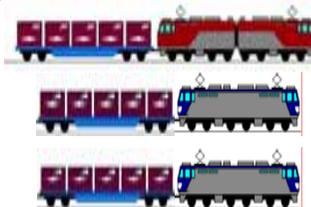
1. 幹線列車の中継ネットを曜日限定で設定

ねらい

曜日別積載率に波動のある幹線列車を対象として、曜日限定で中継ネットを設定することで輸送チャンスを増やし新たな財源を取り組む。



特定曜日の積載率が低い

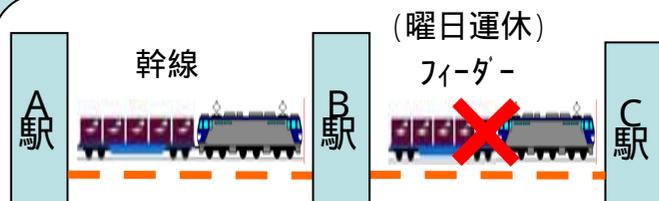


曜日限定で中継ネット設定

2. フィーダ-発着の中継ネットを曜日限定で変更

ねらい

フィーダ-列車に日曜日運休が設定されている場合、先送(後送)となる幹線列車の予約が平日に偏る傾向がある。そのため、平日の輸送力に逼迫感があるため、曜日限定の中継ネットをフィーダ-区間に設定することで休日の輸送量を増やす。



輸送枠が取れない!



輸送枠が取れた!

3. 福岡(夕)～鳥栖(夕)間併用代行

ねらい

「JR貨物による輸送品質改善アクションプラン」に基づき、輸送枠が逼迫しているといわれた福岡(夕)～鳥栖(夕)間について、H19年10月より列車及び代行輸送力の増強を行い、I-TEMセンターで前広に輸送力を調整し、新規需要の取り込みをねらった。

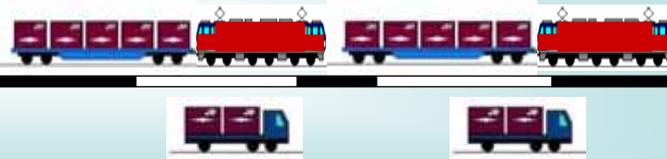
福岡(夕)



鳥栖(夕)

代行輸送力を加え、中継ネット、輸送ルートの前広な調整を実施

福岡(夕)



鳥栖(夕)

コンテナ輸送品質向上に向けた取組み

1. 荷物事故防止に向けた取組み

施策と実績

- (1) 品質向上委員会の設置
これまでに3回実施。主に農薬の臭気対策を検討。今後は荷崩れ防止対策に取り組み開始。
- (2) お客様のご意見を社内で集約するしくみの構築
社内ホームページにご意見投稿ページを開設、現在までに23件のご意見を頂き、本社内で対応を検討し回答
- (3) 鉄道貨物協会等との連携による輸送品質改善
輸送品質向上委員会において荷崩れ、荷擦れ防止に関する調査研究を実施

(寄せられたお客様の声の概要)

荷物事故 輸送品質関係	<ul style="list-style-type: none"> ・荷物の養生方法、適切な養生材料 ・フォークの取扱い ・使用後のコンテナ内清掃 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンテナ内臭気の防止対策 ・コンテナ内の温度変化 ・濡損事故防止対策 その他
コンテナ修繕点検関係	<ul style="list-style-type: none"> ・散水テストの実施方法 ・定期点検でのコンテナ内部の点検、清掃 ・定期点検の実施状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・フォークポケット案内板の修繕方法 その他
その他 (積付け、取扱い等)	<ul style="list-style-type: none"> ・緊締装置の取扱い、貨車への積付け位置 ・フォークを用いた不適切なコンテナへの積込み 	<ul style="list-style-type: none"> その他

2. 特大コンテナの限界調査手順の改善に向けた取組み

特大貨物の扱いとなる大型コンテナの限界調査方法を改善し、登録に要する期間の短縮を行った。(平成20年度実施)